

新年おめでとうございます。そして、おはようございます。

平成最後の年始年末をどのように過ごしましたか。

さて、平和なお正月が過ぎていこうとした1月3日午後6時、熊本県なごみ和水町で震度6弱の地震がありました。南海トラフ巨大地震のようなプレートが関係する地震の前に内陸で様々な地震が起こると言われています。この度の地震がその前兆であるかどうかはわかりません。地震のようないつ起こるかわからない危機に対して過大に恐れる必要はありませんが用心に越したことはありません。寺田寅彦が随筆で「正當にこわがることはなかなかむづかしい」と書いています。災害のない一年を望みますが心の隅で常に「正當にこわがる」備えをしたいものです。

◆ 今年も安全安心の話から

2学期終業式(12月21日)でも触れましたが泊神社の斜め道路で自転車事故が多発しています。そこで12月28日(金)県民局や加古川市、県教育委員会、加古川市教育委員会、道路管理関係、警察、地域で安全指導をしている方、および本校を含めた関係小中高校を合わせた総勢30名弱の関係者で現地を調査しました。その結果道路の立地や構造上危険性が高い(交通事故が起きやすい)ポイントであることが改めてわかりました。早急な改善が望まれます。ただし、交通規制や構造上の改変にはさらなる調査や地域との話し合いなど時間がかかる課題でもあります。ただ、行政側も多方面と連携し、対応していただける事になりました。具体的な改善はもう少し先になろうかと思えます。今後も泊神社のポイントを通過する生徒は十分注意して登校してください。また、本日の登校でわかったと思えますが北門入り口は狭く、道路との見通しも正門ほどよくありません。十分に注意して余裕を持って登校してください。そして、職員室が仮設校舎に移動し、生徒の皆さんの教室移動する際の動線(移動するライン)が変わります。危険がないように考えていますが生徒の皆さんで「ここは危ないのではないか」という箇所があれば学校に知らせてください。2019年も、まずは健康、安全がすべての土台です。

◆ 平成からつぎの時代へ

新元号は4月1日に発表されます。明治、大正、昭和、平成の次の元号は、ま行、た行、さ行、は行ではないでしょう。さてどのような元号になるのでしょうか。元号については様々な立場やものの考え方がありますのでこれ以上は触れません。ただ、元号は歴史の中に生きる私たち、特に日本人としての歴史的事実を自覚させます。そもそも私達にとって歴史とは何でしょうか。40代になってさまざまな本を読んでいると、自分には決定的に歴史感(観)というか歴史的教養がないことに気づきました。そこで、当時ベストセラーになっていた塩野七生さんの「ロ

「ローマ人の物語」という歴史エッセイを読みました。3年生で進路が決まった生徒の皆さん、一読を勧めます。なぜ進路が決まった生徒に限定にしたかという、あまりに面白いので他のことが手につかなくなるかもしれないからです。なにしろ全15巻もあります。題名にあるようにローマ時代の形成から消滅までを扱っていますから。その中で、カエサル（ジュリアス・シーザー）の言葉が今の仕事でも何かと湧き上がってきます。

「人間ならば誰にでも、現実のすべてが見えるわけではない。多くの人は、見たいと思う現実しか見ていない」

見たいと欲する現実しか人はみない。人は他者に対して、好意を持ったりその逆と決めつけたことがあります。すべてを見ることはできない中で自分の都合の良い物語に落とし込もうとします。悲劇？喜劇？という見方がひとつ。見たい未来をイメージすることで日々の努力を続けることができるという見方もできます。また、リーダーとは見たいと思うビジョンを多くの人に共有させることができる人であるともいえます。光と影があります。

歴史家トインビーは「人間とは歴史に学ばない生き物である」という言葉を残しています。

人間は歴史に学ばない。いつの時代でもそこに生きた人間が時間の矢の最先端にいます。歴史はその降り積もった時間の豊かな地層。終わりゆく「平成」に思いを巡らしましたが、確実に言えることは次の元号は皆さんの時代であるということ。みなさんがメインキャストであるということです。

◆ 元気な言葉は人を引きつける磁力がある

新年ですね。元気な話題を提供しましょう。年始年末さまざまな人と会いました。おもしろい年賀状もいただきました。その中に毎年の年賀状を心待ちにする友人がいます。それは、いつも1月3日以降に届くものです。元旦に一人ひとりに思いを巡らして書いているのでしょうか。いつも味のある万年筆ではがき一面に文章が綴られています。その中には、青少年を育てる立場から人材育成の難しさや、われわれ高校教育への厳しい指摘も書かれています。しかし、文末は必ず爽快な言葉で締めくくられています。みなさんはLINEなどスマホで新年の挨拶をしたのですか？「あけおめ」ですか？

ツールはなんでもいいのです。発する言葉がポジティブであれば。「頑張ろう」「心配ないよ」「まだまだできる」「私がついている」「ありがとう」「いっしょにやろうよ」…

私達は本当に一期一会の世界に生きています。だから、いつも何気ない会話、なにげない一言に思いを致さなくてははいけません。

2019年がみなさんにとって、教職員その他加古川南高校にかかわるすべての人にとってよき1年になることを祈り始業の言葉とします。

以上